



2019年1月7日

各 位

三重県保険医協会

運動の取り組みについて

2018年10月11日、保団連中央要請行動と「憲法・いのち・社会保障まもる10・11国民集会」が開催された。三重協会から鶴飼・梅村各副会長と林理事が参加した。

午前中に地元選出国會議員の岡田克也氏と懇談を行った。岡田議員との懇談では、消費税の増税について、高齢化が進む中で、医療をはじめとする社会保障制度の財源とするためにも、10%への引き上げはやむをえないとの見解を示された。またこの他、生活保護受給者や高額療養費制度等について、意見を交換した。

午後からは、日比谷野外音楽堂で開催された「憲法・いのち・社会保障まもる10・11国民集会」に参加した。集会では、先の沖縄県知事選挙における玉城デニー知事の当選に触れ、これを機に現政権の掲げる改憲を阻止し、平和と社会保障の充実を求めるためにも、きたる参議院選挙での勝利に向けた連帯の挨拶がなされた。また、野党各党所属の国會議員からも挨拶がされた。

その後、医師・歯科医師をはじめ看護師・介護職・患者などによるリレートークが行われ、社会保障費削減による苦境が報告された。中でも、全国医師ユニオンの植山直人代表からは、政府は働き方改革を進めているが、いわゆる「過労死ライン」も医師は5年間適用が先送りされているとし、医師ユニオンが実施した調査において、「先月休みがない」と回答した医師が10%も存在し、国の調査でも勤務医で過労死ラインを上回る労働をしている人が4割もいることを報告した。さらに、「当直明け診療で集中力が落ちる」との回答が8割もあり、医療の安全確保のうえでも問題であるとし、これらの課題を解決するためにも、医師数抑制をやめて医療・社会保障費の拡充こそ抜本的な対策だと結んだ。

また、当日は、保団連発行のクイズハガキを基に会場内の全員が参加するクイズ大会が開催され、参加者が一体となり、現在の医療制度の問題点について考える機会となった。

集会終了後は、会場の日比谷公園から銀座界隈を経由し、東京駅までを患者負担増ストップなどをアピールしながら行進を行った。

2018年11月15日、保団連中央要請行動が開催された。三重協会から鶴飼・梅村・横山各副会長が参加した。

保団連主催の「みんなでストップ！患者負担増」の取り組み交流と「消費税増税中止、ゼロ税率適用」会員署名提出集会に参加した。集会には全国から約130人が参加、衆院本会議中にもかかわらず国會議員7人が参加し、連帯の挨拶をした。三重協会は、私以外に横山副会長、梅村副会長と事務局の参加で、フロア発言では横山副会長が三重県での署名活動の具体的な取り組みについて報告した。

集会の前後には、二つの要請項目を県選出および比例東海選出の各議員（秘書対応含む）に要請し、中川正春氏（無・衆・三重2区）、吉川ゆうみ氏（自・参）とは議員本人に直接要請した。さらに主な要請項目以外では、中川氏とは「歯科技工士問題」について、吉川氏とは「学校歯科調査からみる子どもの貧困問題」について懇談できたことも成果であった。

集会後は午後4時から、吉田統彦氏（衆・立民）の仲介で東海ブロック（歯科）と厚労省保険局医療課歯科医療管理官小椋正之氏への要請に参加した。今期改定内容について事前に提出した10項目の要請に対し、基本診

療料の減算や届出に関連する研修会の内容や施設基準届出受理の問題、歯科衛生士配置など施設基準の内容の不整合性についてなど一つずつ回答をいただきながら意見交換を行った。

(三重県保険医協会副会長・鶴飼伸)

以 上